

令和 7 年度 川崎市総合教育会議

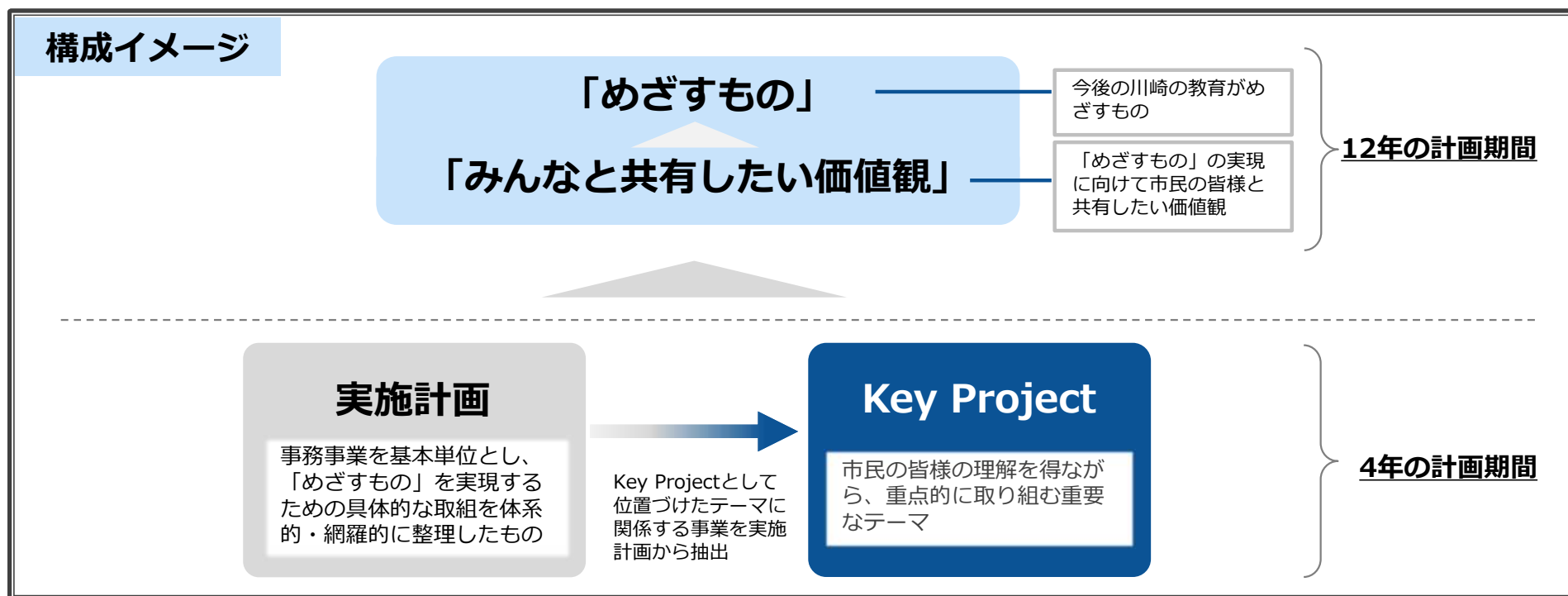
次期教育プラン策定に向けた検討

令和 7 年 1 0 月 7 日（火）

次期「かわさき教育プラン」について

次期プランの構成

- 12年間の計画期間を通じて実現をめざすもの（「めざすもの」）と、「めざすもの」に向けた取組を進めるにあたり、市民の皆様と共有したい価値観（「みんなと共有したい価値観」）を整理します（後述）。
- 「めざすもの」を実現する具体的な施策や事務事業等については、4年ごとに見直しを行う「実施計画」とすることで、新しい課題や状況の変化に、より柔軟に対応できるような政策体系とします。
- 市民の皆様の理解を得ながら、重点的に取り組む重要なテーマを「Key Project」として位置づけます（後述）。



Key Project 1 探究的な学びの充実

Project 1

社会参画に向けた資質・能力を育成する 探究的な学びの充実

- 変化が激しく将来の予測が困難な時代を自らの力で生き抜いていくためには、「**自分（たち）で考え、解決していく学び**」が重要であり、「めざすもの」の実現に向けては、自ら地域・社会に関わり、課題を見つけ、他者と共に考え、解決していく「探究的な学び」を充実させる必要があります。
- 本市では、既に総合的な学習の時間を中心に各学校において「探究的な学び」の実践が行われていますが、これまで取り組んできた、地域と共にある学校づくりの取組や「キャリア在り方生き方教育」における地域への愛着を深める教育活動を発展させながら、**地域・社会への参画を通して、資質・能力を育成する探究的な学びを、すべての市立学校で実践**できるよう検討していきます。

令和7年5月公表

「次期かわさき教育プランに向けた考え方」



《検討の視点》

POINT
1

小中9年間を通じた探究的な学び

小中9年間の中で発達段階に応じて身につける資質・能力を共有しながら、地域の小・中学校が連携し、教育活動に取り組む環境を整えていきます。

POINT
2

川崎の特色を活かした取組

「キャリア在り方生き方教育」など、これまでの本市の取組を土台として、学校と地域との関係を大切にしながら、各学校や地域の特色を生かした探究的な学びに取り組んでいきます。

POINT
3

地域と連携した教育活動

探究的な学びを進めていくためには、地域の理解や協力が重要となるため、地域との関係をより深める取組を行っていきます。

Key Project 1 探究的な学びの充実

「考え方」で示した方向性

社会参画に向けた資質・能力を育成する探究的な学びの充実

地域・社会への参画を通して、資質・能力を育成する探究的な学びを、
すべての市立学校で実践

「次期教育プラン」での表現方法

かわさき探究 2.0 へ

地域に学び地域にかかわる「探究的な学び」を実践し、行動につなげる

土台となる施策

「学校を核とした地域づくり」
「キャリア在り方生き方教育」
「学校 e～ね★サミットの継承」

Key Project 1 探究的な学びの充実

「次期プラン」に位置付ける取組の概要

更なるバージョンアップと全体的な底上げの取組

モデル校(4校)で4つの取組を実施(2年間)

学習テーマ

地域資源
(魅力・課題)

学びの質向上

探究に集中
できる時間割
“探究タイムデザイン”

系統的な学び

地域の
小中が連携

地域と共に

目標・学習内容
を共有

指導主事等が集中的に支援しながら好事例（モデル）を創出

- 各校の特色を活かしながら、R8年度からモデル校での「かわさき探究2.0」を実践
- モデル校での検証内容や、新たな学習指導要領等を踏まえながら、効果的な実践内容を検討し、全校で実践
- 市立高等学校、特別支援学校においても、それぞれ自律化・高度化した探求の実践や、一人ひとりの実態に応じた取組を推進

かわさき探究2.0を実現するための取組

教員向け「かわさき探究2.0
ガイドブック」の作成

地域資源・人材の
マッチングスキーム

探究学習等の
発表会の開催

各校の担当者等への
研修の実施

保護者・地域に
向けた広報

- 全ての市立学校で「かわさき探究2.0」の実践が進むよう取組を実施

Key Project 1 探究的な学びの充実

学習テーマ

地域資源（魅力・課題）

モデル校として実施する内容

●地域の魅力や地域の課題をテーマとする探究カリキュラムを実施

これまで、学校ごとに学習素材を選び、必ずしも地域資源を取り扱うものではなかったが、モデル校では地域の魅力や課題をテーマとした探究活動を実施し、全校展開へつなげる。

地域の魅力や課題の例

地域の緑の保全
地域防災
まちづくりに関わる人々
伝統芸能の継承
地域の子育て支援

モデル校ごとに異なる内容

（各校の特色や子どもの興味関心に応じた内容）

地域・社会への参画へ

学び・かかわることで
地域の一員として自覚し、
行動につながる。

Key Project 1 探究的な学びの充実

学びの質向上

探究に集中できる時間割 “探究タイムデザイン”

授業を行う教員が、学校や地域の実態に応じた学習計画を立てることができ、連続・発展的な探究サイクルを確保できる。

1 単元づくり期間の確保

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	単元づくり		“総合”で探究的な学び (探究学習のサイクルを連続・発展的に繰り返す)									

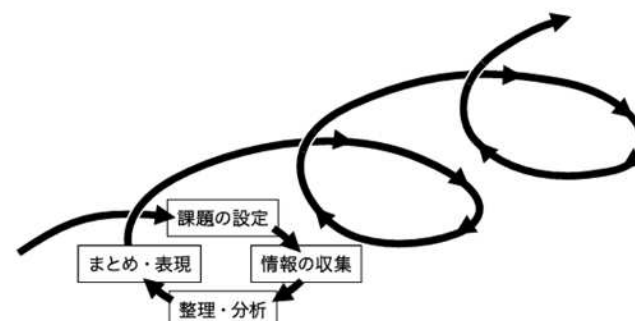
モデル校として実施する内容

● 4・5月を単元づくり期間

➡決まったカリキュラムがなく、各校で目標・単元を組み立てる“総合”において、しっかりした授業計画を立てられるしくみとして設定する。

● 6月～“総合”で探究的な学び

➡探究学習のサイクルを連続・発展的に繰り返し、探究学習のよさを理解しながら経験を積み重ねることで資質・能力の向上につなげる。



探究的な学習の過程

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

探究的な学習における児童生徒の学習の姿

Key Project 1 探究的な学びの充実

学びの質向上

探究に集中できる時間割 “探究タイムデザイン”

2 学年ごとに探究DAYを設定

モデル校として実施する内容

● 学年ごとに探究DAY（総合的な学習の時間の曜日）を設定

※基本的な設定方法であり、モデル校の状況に応じて調整

➡ 学習内容に応じた学習時間を設定
(連続した時間割りの設定・モジュールの活用など)

モデル校ごとに異なる内容
(各校の特色や子どもの興味関心に応じた内容)

例	月	火	水	木	金
1	3 学年	6 学年		1 学年・5 学年	2 学年・4 学年
2					
3					
4					
5					
6					

学習内容に応じて柔軟に授業時間を設定

- ・ 導入 3 コマ連続
- ・ 地域での実践やインタビュー 4 コマ連続
- ・ 振り返り 1 コマ など

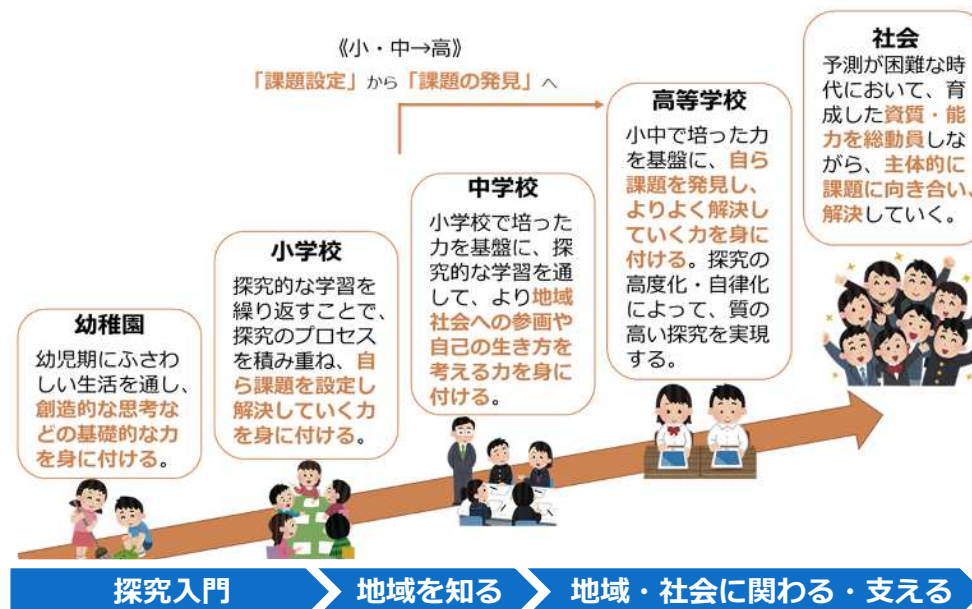
Key Project 1 探究的な学びの充実

系統的な学び

地域の小中が連携

モデル校として実施する内容

- **地域の小学校と中学校で学習内容を共有**
 - ➡ 小中9年間の学びの連続性を確保する。
 - ➡ 各学校が持つ地域資源等の情報を共有し、学習内容に活用する。



地域と共に

目標・学習内容を共有

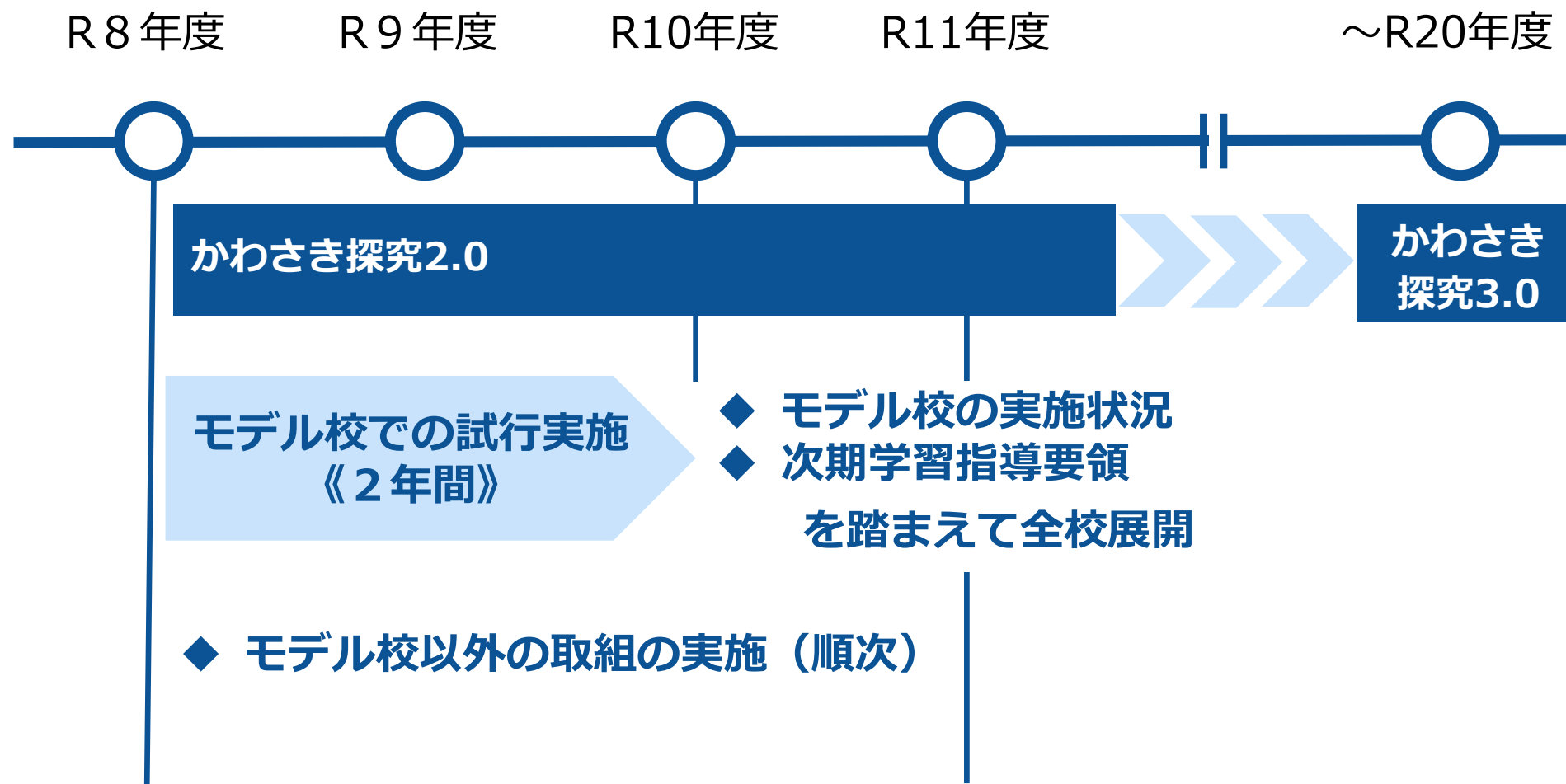
モデル校として実施する内容

- 学校運営協議会と学校説明会を活用して地域に説明
- 地域への発信

地域・保護者の学習への理解が深まる

“ともに学び、ともに課題の解決に向かう”関係へ

Key Project 1 探究的な学びの充実



Key Project 2 切れ目のない支援

Project 2

学校、関係機関などの組織等の 枠を越えた連携による 切れ目のない支援

- ダイバーシティやインクルージョンの進展といった市民の価値観の多様化が進んでいる中、本市では、今後、児童生徒数の減少が見込まれる一方で、**特別支援学校や特別支援学級の在籍者、不登校児童生徒などは増加しており、一人ひとりに合った支援を行うためには、学校だけで対応することは困難**な状況となっています。
- そのため、本市では、**異校種間の縦の連携や、保健・医療・福祉の関係機関等との横の連携をより一層強化し、組織等の枠を越えて連携した支援体制を整備し、児童生徒のライフステージを見通した切れ目のない支援の充実**に向けて検討していきます。

令和7年5月公表
「次期かわさき教育プランに向けた考え方」



《検討の視点》

POINT
1

発達段階等に応じた切れ目のない支援

一人ひとりの成長・発達段階や就学の過程に応じた切れ目のない適切な学びを実現するため、幼保・小学校・中学校・高等学校の連携を進めていきます。

POINT
2

多様な主体との連携による支援

一人ひとりの資質・特性、成長に伴う障害等の変化や複雑化、多様化する不登校の背景、理由に応じた適切な支援を行うため、学校、関係局区、保健・医療・福祉の関係機関、さらには地域や民間団体等、多様な主体との連携を進めていきます。

POINT
3

多様な学びの場の提供

一人ひとりが自己を理解し、自分らしく社会的に自立していくためには、それぞれの力を伸ばすことのできる環境が整った学びの場があるとともに、自分で選択できることが必要であるため、多様な学びの場の充実に向けた取組を行っています。

POINT
4

児童生徒の安全・安心な居場所づくり

「放課後等の子どもの居場所に関する今後の方向性」（令和7（2025）年3月こども未来局策定）に基づき、関係局等と連携しながら、児童生徒が健やかに育つことのできる居場所づくりを進めていきます。

Key Project 2 切れ目のない支援

プロジェクトの背景等

学校、関係機関などの組織等の枠を越えた連携による切れ目のない支援

《背景》

- ◆ ダイバーシティやインクルージョンの進展といった市民の価値観の多様化
- ◆ 特別支援学校や特別支援学級の在籍者、不登校児童生徒などの増加
- ◆ 一人ひとりに合った支援を行うためには、学校だけで対応することは困難な状況
- ◆ 校種間の縦の連携や、保健・医療・福祉の関係機関等との横の連携をより一層強化し、組織等の枠を越えて連携した支援体制を整備し、児童生徒のライフステージを見通した切れ目のない支援の充実に向けて検討することが必要

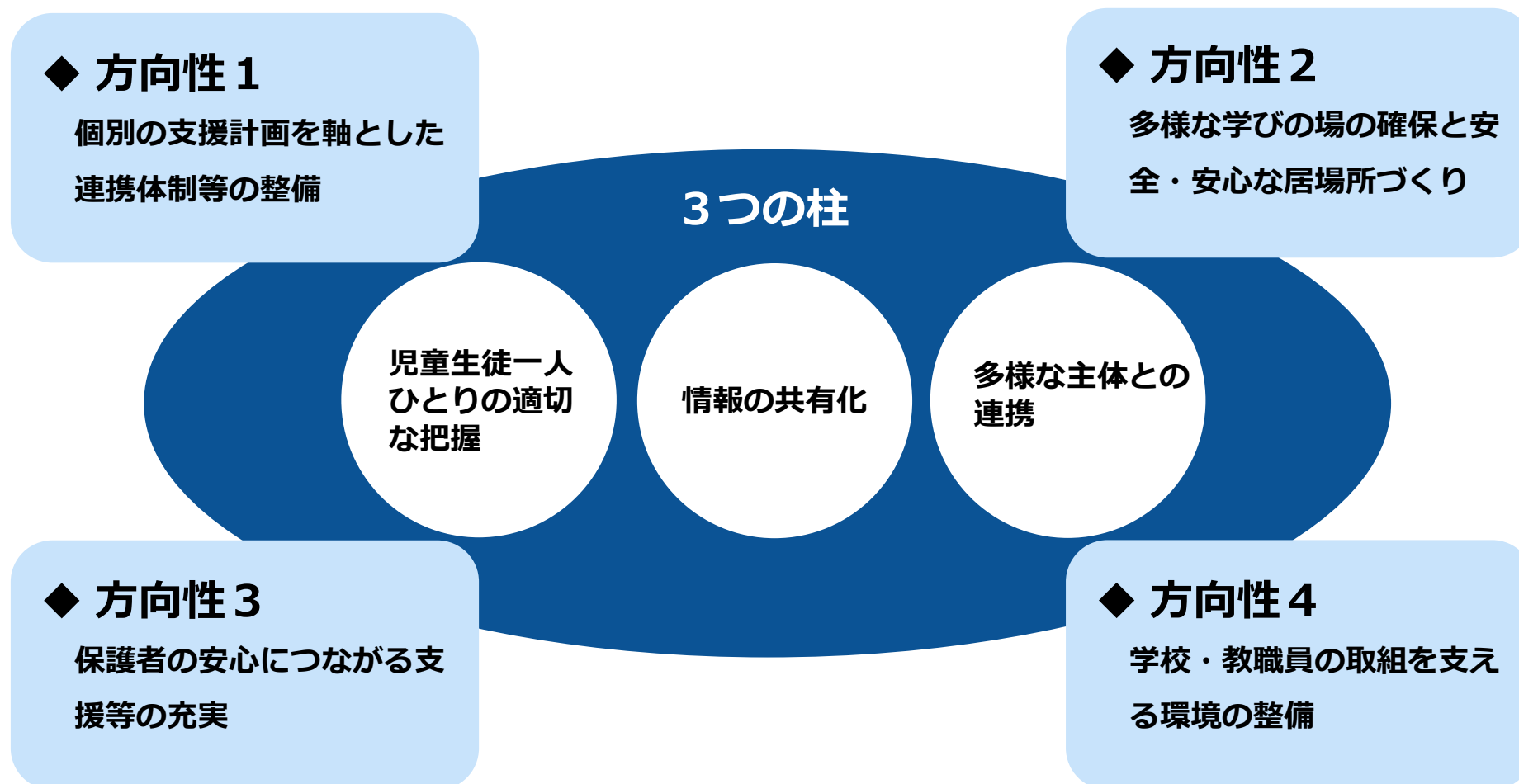
《課題、視点》

- ◆ 発達段階等に応じた切れ目のない支援
- ◆ 多様な主体との連携による支援
- ◆ 多様な学びの場の提供
- ◆ 児童生徒の安全・安心な居場所づくり

Key Project 2 切れ目のない支援

《プロジェクトの方向性》

- 児童生徒の状況の変化や複雑化、多様化するニーズ等を適切に把握し、一人ひとりに応じた支援を行うためには、「**児童生徒一人ひとりの適切な把握**」を行い、関係局等で「**情報の共有化**」を進めることにより、「**多様な主体との連携**」を行うことが重要です。
- このため、これらを取組における**3つの柱**とし、次の**4つの方向性**に基づき、児童生徒一人ひとりに応じた切れ目のない支援の実現に向けて取組を進めます。



Key Project 2 切れ目のない支援

方向性 1

個別の支援計画を軸とした連携体制等の整備

【課題】

- ・ 支援が必要な児童生徒の増加や状態、ニーズ等の多様化、複雑化
- ・ より適切なアセスメントと支援計画の作成、情報を継続的に共有できる体制が必要

【取組の方向性】

- ・ 児童生徒の客観的かつ継続的な状態の把握
- ・ 関係局、関係機関等との情報共有、連携体制等の整備

客観的かつ継続的なアセスメント等の実施

(主な取組内容)

- ・ 児童生徒の状態を客観的かつ継続的に把握し、共有するための仕組みの整備
- ・ 関係局と連携した児童生徒のアセスメント及び支援の実施体制の整備

情報共有による支援の連続性の確保

(主な取組内容)

- ・ 校種間、関係局・関係機関、幼保小など、様々な連携に向けた情報共有のルールの特明確化
- ・ 関係団体、関係局等により構成する会議体の設置等

Key Project 2 切れ目のない支援

方向性 2

多様な学びの場の確保と安全・安心な居場所づくり

【課題】

- ・ 別室指導において、人員配置等が課題であり、児童生徒が安心して利用できる環境が不十分
- ・ 学びの場を選ばないオンライン学習システムが十分に活用できていない。

【取組の方向性】

- ・ 多様な学びの場の確保に向けた効果的な支援人材の確保、配置
- ・ 関係局と連携した児童生徒の安全・安心な居場所づくり

児童生徒一人ひとりに応じた多様な学びの場の確保

(主な取組)

- ・ 校内支援の拠点としての別室指導への支援人材の配置及び環境の整備
- ・ オンライン学習システムの活用促進等に向けた伴走支援員の配置
- ・ 大学等の民間団体との連携など、支援人材の確保に向けた取組の推進

関係局と連携した児童生徒の居場所づくり

(主な取組)

- ・ こども未来局の放課後等の子どもの居場所づくり等と連携した児童生徒の居場所づくりの推進
- ・ オンライン学習システムの活用等による居場所における学習支援の取組の推進

Key Project 2 切れ目のない支援

方向性 3

保護者の安心につながる支援等の充実

【課題】

- ・ 保護者に必要な情報が届かないことにより、保護者が孤立し、適切な支援につながらない、つながりにくいという状況がある。

【取組の方向性】

- ・ 相談窓口や支援内容などの必要な情報のわかりやすい発信
- ・ 学校や関係局等と連携した保護者の安心につながる支援の実施

分かりやすく、アクセスしやすい情報提供

（主な取組）

- ・ 関係局も含めた支援内容や相談窓口に関するポータルサイト等の作成
- ・ 相談会等の保護者支援の取組のSNS等を活用した情報発信

関係局等と連携した保護者支援の実施

（主な取組）

- ・ 親の会等と連携した講演会等の開催など、保護者が安心感を得るためのピアサポートの実施
- ・ 関係局と連携した、保護者向けの相談会等の実施
- ・ 相談会等で得られた保護者の意見等を踏まえた支援内容の検討、改善

Key Project 2 切れ目のない支援

方向性 4

学校・教職員の取組を支える環境の整備

【課題】

- ・ 特別支援学級等の児童生徒数の増加や状態、支援ニーズ等の多様化、複雑化
- ・ 教職員の知識や専門性の維持、向上の必要性

【取組の方向性】

- ・ 教職員の知識の習得や専門性の維持・向上のための効果的かつ継続的な研修等の実施
- ・ 教職員の負担や不安の軽減に向けた、教職員をサポートする体制の整備

教職員の専門的知識やスキルの向上に向けた研修の充実

（主な取組）

- ・ 通常級での支援の充実や特別支援学級等の担当教員の専門性の維持・向上に向けた研修内容の見直し
- ・ スクールカウンセラー等の知識、スキルの向上に向けた関係局と連携した研修等の実施

専門職等によるサポート体制の強化

（主な取組）

- ・ 特別支援学校や通級指導教室設置校のセンター的機能の在り方の見直し及び拡充
- ・ スクールカウンセラー等の専門職の配置等の見直し
- ・ 関係局等の専門職による指導・助言などの教職員のサポート体制の整備
- ・ 小中学校の支援学級に在籍する児童生徒の増加等に伴う、中央支援学校高等部分教室の学校化等を含め、支援ニーズに対応できる学校体制の検討

Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

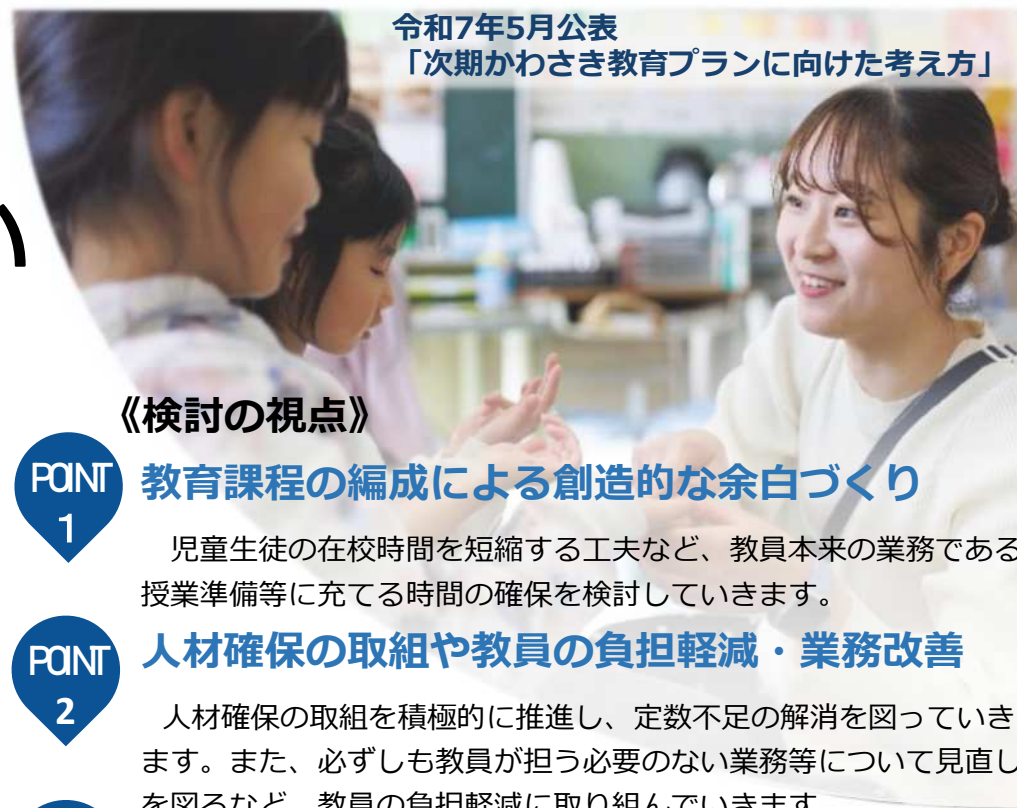
Project 3

教職員が働きやすい環境づくり

- 教員の長時間勤務が課題となる中、本市においては2次にわたる「**教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針**」に基づき、様々な取組を進め、時間外在校等時間の縮減などの成果が出ているものの、文部科学省が指針として示した**時間外在校等時間の上限を超えている教員の割合は、依然として大きい状況**です。
- 35人学級制や特別支援学級の児童生徒数の増加等を要因として、**教員の定数は増加**していることに加え、全国的な教員不足の影響は本市でも例外ではなく、特に年度途中における産育休取得者の代替教員の確保が難しいなど、**教員不足の状況**が続いています。
- 今後も、各学校において「働き方・仕事の進め方改革」の実践の支援を進めるとともに、人材確保を含めた**更なる取組の推進に向け、市立学校で働く環境の改善を進めるためのしくみづくりを検討していきます。**

令和7年5月公表

「次期かわさき教育プランに向けた考え方」



《検討の視点》

POINT
1

教育課程の編成による創造的な余白づくり

児童生徒の在校時間を短縮する工夫など、教員本来の業務である授業準備等に充てる時間の確保を検討していきます。

POINT
2

人材確保の取組や教員の負担軽減・業務改善

人材確保の取組を積極的に推進し、定数不足の解消を図っていきます。また、必ずしも教員が担う必要のない業務等について見直しを図るなど、教員の負担軽減に取り組んでいきます。

POINT
3

児童生徒主体の学びへの転換

児童生徒が主体的に考えて学びを自走していくように、教員はファシリテーター役を担う学びへの転換に向けた取組を推進していきます。

POINT
4

しくみづくり・環境整備

ICT技術等を活用等した業務改善や委託化等により、教員の業務負担を軽減し、効率的な環境整備を推進していきます。

Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

「考え方」で示した方向性

教職員が働きやすい環境づくり

人材確保を含めた更なる働き方改革の取組と、市立学校の教職員の働く環境の改善を進めるためのしくみづくりを検討

「次期教育プラン」での表現方法

学校との意見交換会の結果を踏まえた、次期「教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針」において、「4つの対応の方向性」を定め、取組を進めます。

これまでの取組

「教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針」

第1次 平成31年2月～令和4年3月

第2次 令和4年4月～令和8年3月

Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

「考え方」に示した“検討の視点”

意見交換会の結果を踏まえ、
「4つの対応の方向性」を定めた

「次期プラン」に位置付ける取組の概要

市立学校において4つの対応の方向性に基づく取組を実施（4年間）

視点
1

教育課程の編成による創造的な余白づくり

視点
2

教員の負担軽減・業務改善

視点
3

児童生徒主体の学びへの転換

視点
4

しくみづくり・環境整備・人材確保の取組

- ・ 業務負担の軽減により、教員が子どもと向き合える時間の増加や、教員としての専門性向上に資する学びの時間の確保
- ・ 時間外在校等時間の縮減
- ・ 教員から教えを受けるだけでなく、児童生徒自身が自ら探究するなどの能動的な学びへの転換

Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

4つの方向性

方向性 1

教育課程の編成による創造的な余白づくり

●教育課程を工夫し、放課後等の時間を創出することで、教員に時間的な余白を生み出し、子どもと向き合う時間の確保や教員の能力向上の時間に充てる。

【主な取組】

教育活動における教科時数へのカウントや行事の見直しを行った上での年間総時数を計画し、モジュールも組み合わせた曜日ごとのコマ数や短縮時程を設定します。

全校集会や朝の会・帰りの会、清掃、休み時間などの時間や頻度を検討します。

最終的には、1コマの時間数も考慮に入れた、季節に見合った年間の教育課程編成となります。

年間	週・月
<ul style="list-style-type: none">・年間総時数の見直し（余剰削減）・時数をなるべく教科にカウント・行事の見直し（精選・簡略化など）・季節に見合った教育課程	<ul style="list-style-type: none">・曜日ごとのコマ数・5 時間授業日・短縮時程・特別時程設定・全校集会の見直し

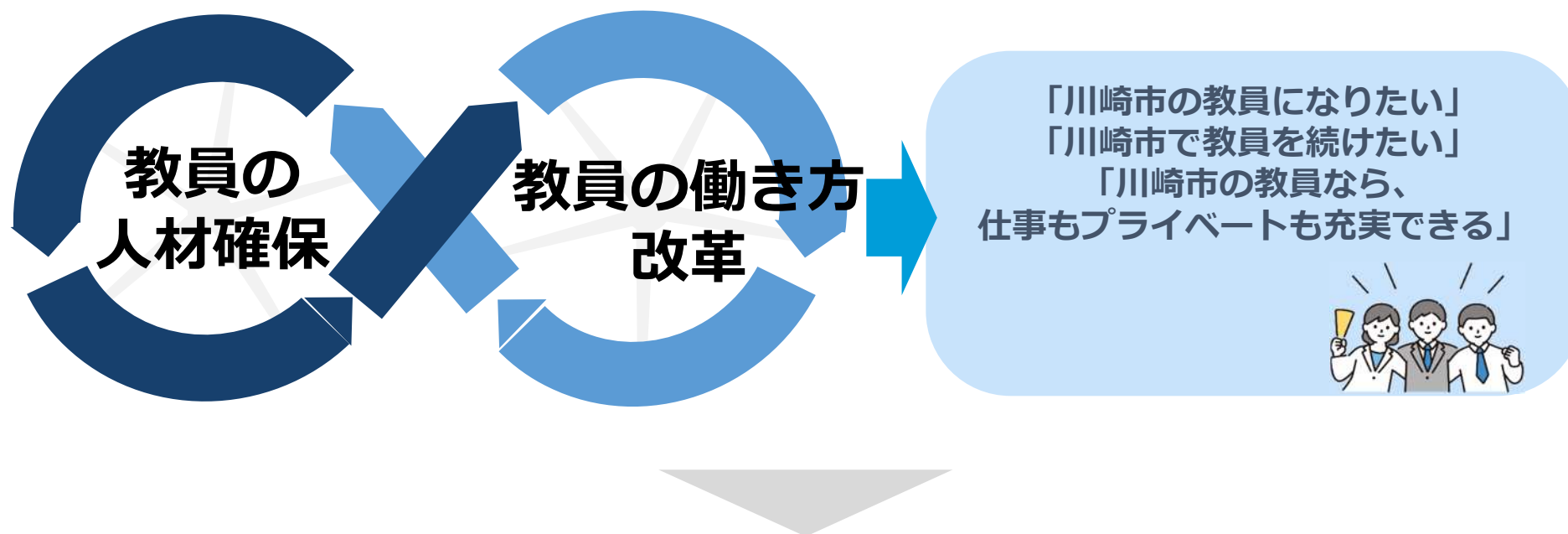
Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

4つの方向性

方向性2

教員の負担軽減・業務改善

- 人材の安定的確保と教員の働き方改革を両輪で進めることで、好循環を生み出す。



“持続可能な学校運営体制の構築”を目指す。

Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

4つの方向性

方向性3

児童生徒主体の学びへの転換

●教育の質を高めていく授業改善を行っていく。

【南河原小の実践例】

文科省のリーディングDX事業指定校として、「一人一人の子どもが主語の端末活用」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をテーマに、GIGA端末を活用しながら、子どもたちと共に創る学びを進めています。



Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

方向性 4

4つの方向性

しくみづくり・環境整備・人材確保の取組

●学校現場との意見交換等を踏まえて教職員が働きやすい仕組みづくりや環境整備に向けた対応策を検討するとともに人材の安定的な確保を図ります。

【主な取組】

・端末等の統合

教育DXを進めていくため、個別に整備・運用されてきた学習用端末と校務処理に用いる端末及び各ネットワークについて統合するための取組を推進する。



・保護者等への対応

保護者等が学校へ行う相談の過度な抑制につながらないようにすることなど、学校と保護者等の良好な関係を維持することに留意しながら、学校における不当要求行為等に対する考え方を整理する。



Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

R8年度 R9年度 R10年度 R11年度 ~R20年度

次期「教職員の働き方・仕事の進め方の方針」の
計画期間

業務改善等実践校での実施

23校

43校

63校

83校

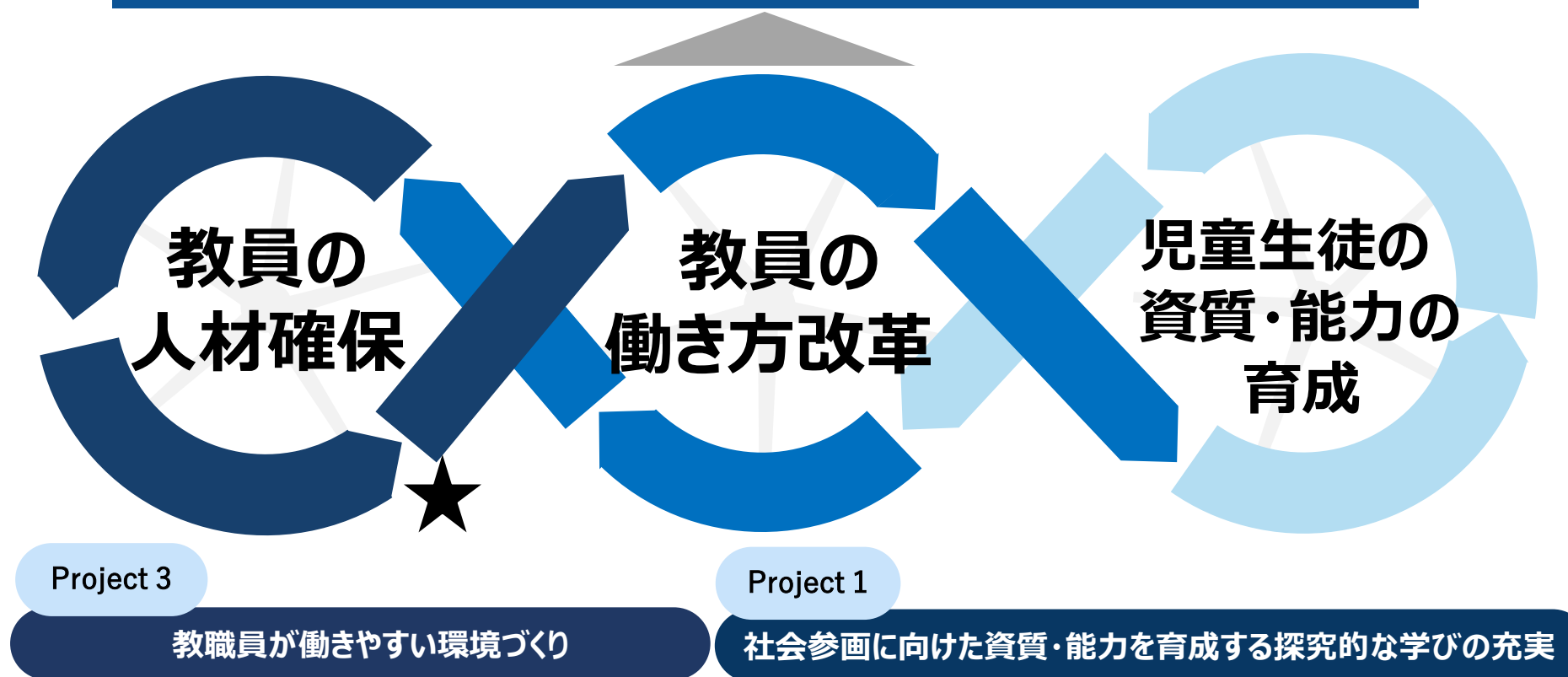
全ての
市立学校



Key Project 3 教職員が働きやすい環境づくり

《参考：Project 1 と 3 の関連性》

子どもたちのための“教育の質”の向上



- 教員の人材確保を振り出し（★）に、教員の働き方改革の取組を両輪で進め、教員の業務負担を軽減することで、教員が子どもたちと向き合える時間を増やすことや、教員が自らの専門性を高める時間を作り、児童生徒の資質・能力の育成につながる好循環を生み出すことにより、教育の質の更なる向上を目指す。

Key Project 4 「学び」と「学び合い」社会の実現

Project 4

生涯を通じた「学び」と「学び合い」社会の実現

- 子どもだけでなく、大人にとっても、変化が激しく将来の予測が困難な時代を心豊かに生きていくために、**生涯を通じて学ぶことが大切です**。さらに、個々の「学び」を社会に発揮することや、「学び」を通じたつながりづくりによって、**ウェルビーイング社会の実現が期待**されています。
- 市民館や図書館を中心とした**市域全体での「学び」の場づくり**や、地域教育会議や地域の寺子屋事業などの**地域での教育活動の推進を一層進めることで、より幅広い市民が学び、互いに学び合いながら、緩やかなつながりが広がるよう検討**していきます。



令和7年5月公表
「次期かわさき教育プランに向けた考え方」

《検討の視点》

POINT 1

生涯学習環境の充実による「学び」の推進

市域全体を学びの場と捉え、時間や場所にとらわれない「学び」の支援を推進していきます。市民の学びの意欲が学習の実践につながるよう、「学び」の内容、場所、手法等、さまざまな「学び」から市民が選択でき、いつでも、どこでも「学び」に触れることができるような生涯学習環境の充実を図ります。

POINT 2

「学び合い」を通じた緩やかなつながり

個人の「学び」を社会に発揮する人づくりや、「学び合い」による緩やかなつながりづくりを進めていきます。

POINT 3

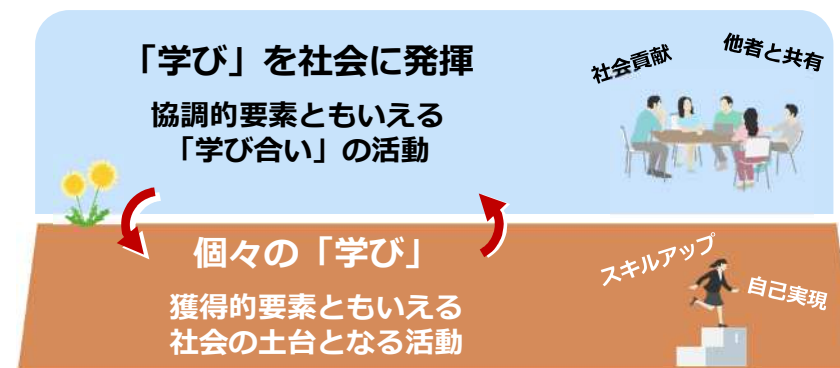
学校と連携した教育活動

地域と学校が同じ教育理念を共有する「地域学校協働活動」を推進し、大人と子どもが共に学び合う活動の充実を図ります。

Key Project 4 「学び」と「学び合い」社会の実現

《プロジェクトの背景》

- 子どもだけではなく大人にとっても、変化が激しく将来の予測が困難な時代を心豊かに生きていくために、これまでの価値観や考え方に捉われず、生涯を通じて学び続けることが大切になっています。
- 個人の学びに加えて、多様な価値観をお互いに尊重し、学び合うことによって、よりよい社会づくりにつながる新しい考え方や価値観を創造していくことが期待されている。



Key Project 4 「学び」と「学び合い」社会の実現

Projectの課題

- 生活スタイルや社会環境の変化、興味関心の多様化などによって「学び」に取り組む時間や場所も様々になっています。
そのため、いつでも、どこでも、さまざまな形で取り組みやすい生涯学習環境の整備を進めていく必要があると考えます。
- コロナ禍以降、地域活動の縮小や地域コミュニティの希薄化が加速しており、自身の「学び」を社会や地域に生かす機会は減少傾向にあります。
そのため、個人の「学び」と様々な教育活動をマッチングできる仕組みをつくることで「学び合い」の機会を増やしていく必要が生じています。
- また、社会教育と学校教育では、それぞれ独自に活動を行うことが多く、連携することによる深い学びの機会は限られています。地域と学校がより一層連携することで、社会教育と学校教育のそれぞれの強みを生かした深い学びの機会が充実すると考えます。

Key Project 4 「学び」と「学び合い」社会の実現

Projectの方向性

いつでも・どこでも・さまざまな「学び」に触れられる

市内の至る所で、生涯学習に触れる機会があふれ、興味を惹かれる“学び”に出会い、生涯を通じて自立し、学び続けることができる

「学び」を活かして、さまざまな形で活躍できる

「学び」を社会に発揮できる機会や、同じ想いを持つ仲間と緩やかにつながることができる仕組みがあり、楽しみながら貢献できる

～ 実現に向けて ～

➤ 生涯学習の充実による「学び」の推進

市域全体を学びの場と捉え、時間や場所に捉われない「学び」の支援を推進していきます。市民の学びの意欲が学習の実践につながるよう「学び」の内容・場所・手法等の様々な「学び」から市民が選択できるような生涯学習環境の充実を図ります。

➤ 「学び合い」を通じた緩やかなつながりづくり

個人の「学び」を、社会に発揮する機会につなげる取組を進め、活動したい個人と活躍の機会のマッチングや、個人や団体同士による情報共有の場づくりなど個人や活動同士の緩やかなつながりを広げます。

➤ 学校と連携した教育活動

地域と学校が同じ想いを共有する学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を推進する中で、個人の能力や経験を地域学校協働活動につなげるプラットフォームの構築、社会教育の強みを生かした体験活動や学習活動の充実を進め、子どもも大人もいきいきと育つ環境づくりを進めます。

Key Project 4 「学び」と「学び合い」社会の実現

方向性1 生涯を通じた「学び」の環境の充実

《主な取組》

行きたくなる市民館・図書館

市民が集う利用しやすい環境や、居心地の良い空間づくりを行うとともに、様々な「学び」の充実を、指定管理者制度の導入による民間ノウハウを活用しながら進める。

市内全域を学びの場

市内全域にアウトリーチすることによる身近な場所での学びの場づくりや、ICTを活用し、場所や時間にとらわれない、多様な生活スタイルに対応した「学び」の提供を進め、まちに飛び出す市民館・図書館を推進する。

社会教育施設の整備

市民の生涯学習や地域活動の拠点として、資産保有の最適化を踏まえた社会教育施設の長寿命化の推進や利用環境の向上など、市民の生涯学習環境の充実を図る。あわせて、学校施設の更なる有効活用に向けた取組の推進する。

Key Project 4 「学び」と「学び合い」社会の実現

方向性2 「学び合い」社会の実現に向けた仕組みづくり

《主な取組》

活躍の機会を創出

個々の「学び」を発揮できる機会を創出することで、活動に関わる人同士の「学び合い」や教育活動を行う団体同士の緩やかなつながりづくりにつながる仕組みづくりの充実を図る。

また、活動したい市民と活動をマッチングできる仕組みを構築するなど、持続可能な活動として、さらなる充実を図る。

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と地域学校協働活動の一体的な推進

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を、学校教育と社会教育の両面から連動させて推進する。

個々の「学び」を
社会に発揮



寺子屋事業の様子



火おこし体験の様子



寺子屋に高校生が協力



橘樹官衙遺跡群での学習の様子



生涯学習講座の様子

「学び」を
通じた
つながりづくり

Key Project 4 「学び」と「学び合い」社会の実現

《参考：Project 1 と 4 の関連性》

- Project 1 の探究的な学びの充実と、Project 4 の生涯を通じた「学び」と「学び合い」社会の実現は、ともに自ら課題を発見し、課題解決に主体的に取り組むことや、他者と意見を交換したり、協働したりしながら新たな価値を創造していく活動です。
- これまで学校教育と社会教育はそれぞれ独自の教育活動として展開することが多く、協働して実施する場合も、一部の限られた人材が、それぞれの活動に「協力する」という形が多い状況でした。
- これからは、学校運営協議会などの場を活用し、地域と学校が同じ想いを共有したうえで、学校教育では「地域・社会の一員としての参画につながる教育」を、社会教育では「さまざまな形で学校教育とも連携し、子どもたちのロールモデルとなるような機会」を増やし、社会教育と学校教育の垣根を低くしていきます。

